

ICT街づくり推進会議 地域懇談会@沖縄 議事要旨

1. 日時

平成26年4月3日（木） 14:10～15:40

2. 場所

久米島町役場 仲里庁舎

3. 出席者

(1) ICT街づくり推進会議構成員

岡座長

(2) ICT街づくり推進会議普及展開WG構成員

江坂構成員、梶浦構成員、齋藤（義）構成員、関構成員、辻田構成員、細川構成員、三崎構成員、武藤構成員

(3) 沖縄県久米島町における実証プロジェクト関係者

平良久米島町長、大田久米島町副町長、中村久米島町プロジェクト推進室長、與座久米島町プロジェクト推進室主査、吉永久米島町福祉課保健師、松山NPO法人くめじま理事長、平良（社）久米島町観光協会専務理事、保坂日本電気（株）執行役員、織田日本電気（株）執行役員、田中日本電気（株）営業推進部長、知念日本電気（株）沖縄支店長 他

(4) 総務省

阪本情報通信国際戦略局長、上原沖縄総合通信事務所長（司会）

4. 議事

(1) 沖縄県久米島町におけるICT街づくり推進事業の取組等について

(2) 意見交換

5. 議事概要

(1) 沖縄県久米島町におけるICT街づくり推進事業の取り組みについて

平良久米島町長により、資料1に基づき説明が行われた。

(2) 意見交換

主な発言は以下のとおり。

【阪本局長】

○本プロジェクトでは、具体的に数値目標を掲げて、それに向かって進めていただいております。是非これからもできるだけ定量的に検証していただけるとありがたい。

○ICTに詳しくない高齢者等も含めた住民の受け止め方はどうか。

【平良町長】

○タブレット端末は、操作方法を教えれば簡単に使えるため、難しい課題ではない。ただし、使ってみようという意欲のある人とない人に二分される点が課題である。

【中村室長】

○町民からの反響については、まだ事業が走り始めたばかりであり、これからというところ。防風林や建物の陰になっていてWi-Fiが繋がりにくい場所もあり、その点を徐々に改善していき、住民が満足できる環境にしていきたいと考えている。

【江坂構成員】

○地産地消経済サイクルサービスに関して、山間部などの農地エリアでWi-Fiを活用するためにどのような工夫をしているのか。

【中村室長】

○Wi-Fi網のエリアについては住宅地域、幹線沿いを中心に整備しており、農地のエリアまではカバーできない部分がある点は課題である。携帯電波での通信はできるが、サービスを使用する農家数を増やし、それに応じて、Wi-Fiポイント数も増やしていきたい。

【梶浦構成員】

○全島Wi-Fiへのアクセス数について、観光客と住民、また利用アプリケーション毎に調べられる点に注目している。アクセス数と利用サービスをもとにエリア毎の展開・縮小計画を立てる考えはあるか。また、光ファイバに関しても同様に調査しているのか。

○個人データにはセンシティブな問題もあるため、個人ではなく場所、利用サービス、さらには時間などのデータを蓄積していくと、スマートコンパクトアイランド構想にもつながる今後の投資計画に活用できるのではないかと考えている。

【與座主査】

○アクセス数のデータを活用し、住民向けの様々なサービスを展開するとともに、観光地においてはポイント毎のアクセス数に基づく効率的な運用につなげたいと考えている。

【日本電気 小杉氏】

○具体的な方法としては、接続サービス毎にネットワークアドレスの識別値を変えて使用していただき、データを取得している。また、アンテナ毎にもデータを取っており、分析しやすいと考えている。

【齋藤（義）構成員】

○地産地消経済サイクルサービスにおいて、農家の高齢者の方々の生きがいにつながるというのは、誰かに買ってもらえるなら新しいものを作ってみようという人や、新たに参加しようという人が増えてきているということか。

○いくら売れたという経済的な指標だけではなく、参加される方々が健康を維持できている、元気になっている、気持ちが明るいというのも大事な視点だと思う。

【松山理事長】

○これまで畑で腐らせていた余剰生産の野菜が、地産地消経済サイクルサービスにより収入に結びつくようになることで、農家の高齢者たちも喜んでサービスを活用している。

○高齢者達は、タブレットの使い方に関する笑い話・やり取りも含めて楽しんでいる。

【関構成員】

○タブレットの使用方法等の指導については、町の職員だけでなく NPO 法人のスタッフ等も協力して対応しているようだが、富山の事例で、タブレットを使い慣れている地域の中高校生等が、高齢者に教えることを通じて、地域コミュニティの活性化にもつなげていくという取組もあり、参考になるのではないか。

【辻田構成員】

○観光ARについて、今もサービスを継続しているのか。利用者の満足度等の評価については調査しているのか。

○島に来た人が便利に楽しめるコンテンツだけでなく、島から帰った人にさらに情報を流して、島の特産品販売や再来島につながるようなコンテンツを充実させていくと意味があるのではないか。

【平良専務理事】

○アンケート調査等はまだ行っていないが、利用者からは、非常に良いサービスで使い勝手がいい、楽しいという意見や、久米島からの観光情報発信が不足している中で、島の魅力を伝えるツールとして、友人への情報発信が積極的に行われている様子が伺える。

【與座主査】

○アクセス数の統計値は委託期間中のもののみを表示しているが、サービス自体は継続しており、夏場に向けてアクセス数が増えていくものと思われる。

【細川構成員】

○教育面では、ICTによる遠隔授業等だけでなく、ICTが整備された環境を活用し、様々な分野の専門家等を島に招いて子供達に生の声を聞かせる機会を作るのも重要である。

○ICTと島内の交通機関の連携はどうなっているか。観光面など、ICTと交通機関による相乗効果が生まれるような設計をしていくことが望ましい。

【中村室長】

○ICTを活用した教育としては、人工衛星や制御系の専門家を招き高校で講演をしてもらったり、アメリカと久米島をインターネット回線で接続して久米島出身のCG作家による教室を開いたりしており、今後も生の声とネットの双方で大いに進めていきたい。

○観光ARサービスと交通システムの部分の連携はまだ不足している。町営バスの接近情報等は観光だけでなく住民にも有益となるので、今後事業継続をしながら連携させていきたい。

【三崎構成員】

○全国の事業において共通する課題は、各取組をどのように継続していくか、横展開していくかという点であるが、全島Wi-Fiの取組が、今回のプロジェクトだけではなく、久米島における様々なプロジェクトのためのICT基盤として位置づけられており、継続性が見えている点が良いと思う。

○高齢者・要援護者支援以外の3つのアプリの収益化についてはどのように検討しているか。

○地産地消経済サイクルサービスについては、地元の経済に対する活性化という点では、地産地消ではなく地産他消となる必要がある。久米島の特産品の島外輸出をICTの仕組みに乗せることで、より強化し、産業を大きくしていくことを検討していただきたい。

【中村室長】

○アプリの今後の収益化等については、行政がずっと面倒を見るのではなく、自立した経済活性化につなげていきたいと考えており、今回の設計に関わった島出身の若いデザイナーから島で起業したいという声が上がっているため、その起業支援等をしていきたい。

【松山理事長】

○収益性に関しては、現在町からは一切支援を受けないで運営をしている。3ヶ月行ってみて非常に手応えを感じており、第一段階としては島内のホテルやレストランを対象に、500万円の売上を目標としている。島外での野菜加工品販売の試みもうまくいっており、ある程度事業の見込みができれば、起業を目指す若い人達を募って事業を譲りたい。

【武藤構成員】

○観光ARを東京や関西のアンテナショップ等で展開する予定はあるか。その際には、アンケート調査を行って参考にすることを勧めたい。
○防災のサービスを、平時時にも、要介護高齢者の見守りなどで上手く使っているような仕組みについて予定しているか。

【平良専務理事】

○観光ARの県外プロモーションとして、昨年度は各地域の観光物産展で展開し、今年度に関しても、羽田空港内をはじめ、随時プロモーション活動をしていく予定である。

【吉永保健師】

○高齢者の安否確認システムについては、慣れるまでは難しい部分もあるが、慣れたら使いこなせるため、福祉課の範囲として、見守りという部分で効率化が図られている。家族が島外に出てしまい、高齢者だけの世帯が増えている中で、徘徊等に対してICTを活用して見守る目を増やす環境を作ることも今後検討していけると思う。
災害については、要援護者に対して実態調査という形での訪問調査等を行っているが、実際にメール等で情報を発信するところまでは至っていないので、今後の参考としたい。

【平良町長】

○今回の事業から言えることは、仕組みづくりの大切さである。仕組み作りがしっかりしていなければ、Wi-Fiが有効に使えない。パソコン、FM放送、タブレット等、各ツールの得意とするものを有効に結び付けて活用する必要がある。今回の経験を生かして、もっとしっかりとやっていきたい。

【中村室長】

○久米島では島内電力の100%再生可能エネルギー化を目指しているが、現状の系

統電源に負荷を与えないよう、スマートメーター等によって、負荷を分散化するような仕組みづくりに取り組んでいきたい。これにW i - F i を活用すれば、さらにW i - F i の利活用が進むのではないかと考えている。

【梶浦構成員】

- 理論上は全く問題ないと思う。電力だけでなく、様々なデータが取れる共用メーター／センサーが島中に設置され、エネルギー・物流・交通等が統合的にインテリジェント化されてくる、知識化されてくるというのが本来の姿であると思う。
- 資料には久米島クラウドセンターとあるが、海洋温度差発電は定常的に発電できるため、ぜひ久米島に大きなデータセンターを作ると良い。

【保坂執行役員】

- おっしゃるとおり。

【阪本局長】

- N E C では色々な地域の実証プロジェクトを行っているが、実際に久米島町と一緒に取り組まれて、そこから得られた教訓があれば伺いたい。

【保坂執行役員】

- ただ単にW i - F i を設置するだけで終わりではなく、その上で、地元の方々がどういう利便性を感じて、またどういう風に変えていくのかというところが必要となるため、住民参加型であった点が良かったし、非常に勉強になった。また、地域での展開には、町長などトップの方々が引っ張っていくという姿勢も非常に重要であると感じた。

【田中課長】

- 国によるI T 国家創造宣言の中で、地域、離島においてもI T ・データを活用する、条件不利地域でも必要なインフラを整備していくということが謳われており、県でもそれをチャンスと捉えて、久米島や周辺の島を光ケーブルでつなぎグループ化して災害に強いインフラを整備する等の事業展開を行っている。離島におけるI C T の展開の必要性を喚起するためのシンポジウムを2月に開催し、今年度は、離島における福祉、もしくは教育分野でのI C T 導入可能性の実証事業を展開したいと考えている。
- 久米島町は、町長が中心となってビジョンを積極的に展開しているという意味で、他の離島にも参考になる、横展開に十分活用できるモデルであるということを確認しており、それを他の自治体にも広めていくのがは県の役割であるので、町に対して直接的に必要なサポートもしながら、横展開を意識して、この事業を見守っていきたい。

【岡座長】

- 重複するが、事業においては、首長の街づくりに対する理念と、大変強いリーダーシップが必要である。久米島町長がその両方をしっかり持っておられるという話を伺い、大変感激した。
 - また、それに対して住民が直接的、積極的にどのように参画してくれるのかということが、もう一つの大変重要な要素であるが、今日伺った範囲では、スタートしたばかりだということもあり、まだ十分ではない部分もあると思う。住民や観光客に、この久米島町の街づくりの理念にどのように参加してもらうか、尽力を続けてほしい。
 - 地産地消の部分については、具体的な成果が出てきて、参加者も増えつつあるという話を大変心強く伺った。本プロジェクトで島が対象になったのは、この久米島町が初めてであり、ぜひこの久米島町におけるICT街づくりプロジェクトが成功して、他の島に横展開できると大変ありがたいので、関係者の皆様方のご尽力を引き続きお願いしたい。
- それと同時に、この懇談会を通じて、他地域のプロジェクトで、久米島町のプロジェクトに役立つ可能性があれば、可能な限りそれを取り入れていただいて、住民や観光客の皆さんの参加をより増やすような形につなげていただけるとありがたい。

以上